

子ども専門部会の課題【第1回専門部会】

- 貧困の連鎖を断つためにも「子どもの貧困」を解決する取り組みが求められている
 - ・子どもの貧困を解決するためには、社会や区全体の底上げが必要。
 - ・子ども自身が気にしている「貧困」という言葉を、構想・計画で用いて良いかどうか。
 - ・ひとり親家庭や低所得の外国人家庭など、子どもを取り巻く様々な状況に応じた支援が必要。
- 若い世代が自立し、活躍できるように支えるための取り組みが求められている
 - ・高校中退者やニート、フリーターが多い。（※ニート、フリーターは区別すべき。）
 - ・子どもたちがやる気を持てるよう、進学以外の多様な進路を伝える職業教育が重要。
 - ・「職人のまち」など、高校中退者も活躍できる基盤づくりが必要。
- 多様化する保育ニーズに応えられるよう、保育の質や量の充実が求められている
 - ・今後、保育ニーズはさらに多様化することが予想され、ニーズや地域性に合った保育の提供が必要。
 - ・多様化に対応するためには、効率・民間保育園の役割分担や保育士の確保が必要。
- 学力の定着・向上のために、教育の質の向上や教育環境の充実が求められている
 - ・足立区は学力が低いイメージがあり、学力の定着・向上が大きな課題。
 - ・区内にある大学を活かした、学力の定着支援に向けた取り組みが必要。
 - ・発達障がいへの支援や担い手が不足している。
- 子どもが健やかに心豊かに育つための環境の充実が求められている
 - ・従来の体験学習だけでなく、大人との交流する機会の充実が必要。
 - ・子どもがものづくりを見て育ったり、身近な場所で緑や土に触れながら育ったりする環境が重要。
- 子どもに関わる様々な主体の連携が求められている
 - ・子どもはまちの宝であり、さまざまな人が子育てや教育に関わることが必要。
 - ・学校の空き教室等を活用した交流など、地域に開かれた学校づくりが必要。
 - ・福祉分野と教育分野との連携など、庁内の横断的な連携体制の構築が必要。

▼くらし専門部会からの提案

- ・高校を中退した人に対するケアや支援が必要。
- ・高齢者と若い世代の関係づくり（交流や支えあい）が必要。
- ・道徳やマナーの向上が必要。

子ども専門部会からの提案事項【第2回専門部会】

足立区の将来像（あるべき姿）

（キーワード案）

- 一人ひとりが夢や希望を持ち、それを実現できるまち
- 未来を担う世代が育まれ、活躍できるまち
- 一人ひとりの個性に応じた保育や教育が受けられるまち
- 子どもたちを地域で支え、育むまち

将来像を設定した根本となる考え方（基本理念）